



道総研

日本海北部スケトウダラ魚群分布調査結果

令和 5 年（2023 年）9 月 28 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場

（連絡先：稚内水試 堀本 0162-32-7166）

- ◎魚探反応量は武蔵堆西部で昨年より減少し、全体平均で前年比 0.75
- ◎留萌沖の底層水温は前年に比べて沖合・沿岸域とも高め
- ◎トロール採集物の主体は、海底深度 250m 以浅では尾叉長 9cm 前後（2023 年級）、海底深度 250m 以深では尾叉長 17cm 前後（2022 年級）

1. 調査概要

雄冬岬以北の道西日本海において、2023 年 8 月 30 日～9 月 6 日に試験調査船北洋丸の計量魚群探知機 EK80 および着底トロール網により、スケトウダラ魚群分布調査を実施し、暫定的に解析を行いました。

2. 魚探反応量

スケトウダラの魚探反応量（NASC）の分布を図 1 に、目立った魚探反応がみられた調査ラインの魚探画像を図 2 に、魚探反応量の経年推移を図 3 に示しました。今年度の調査では、武蔵堆北部（ライン B）や武蔵堆東部（ライン C 東側）、小樽堆南部（ライン F）でまとまった反応がみられました。

ラインごとの平均反応量は前年から減少したところが多く、全体の平均 NASC は前年調査比 0.75 でしたが、現行の調査体制となった 2007 年以降では 4 番目に高く、昨年度に引き続き高い水準でした。

3. 海洋環境

留萌沖（ライン F）における水温の鉛直分布を図 4 に示しました。

今年度の調査では、沿岸域（F1 付近）を除いて、水深 200m でも 4℃以上と、前年度（2022 年度）と比べて高い傾向にありました。

4. 漁獲物組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 5 に示しました。

トロール採集物の主体は、いずれの地点においても海底深度 250m 以浅では 9cm 前後（0 歳，2023 年級）、250m 以深においては尾叉長 17cm 前後（1 歳，2022 年級）の個体でした。

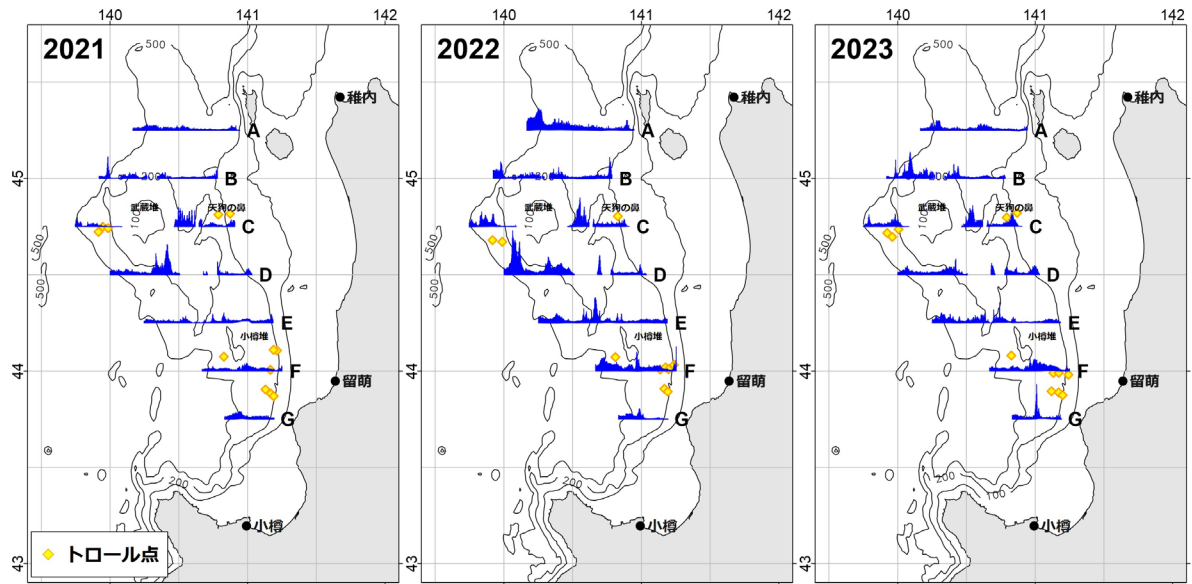


図 1. 魚探反応量の分布（海底深度 150m 以深）とトロール点の位置.

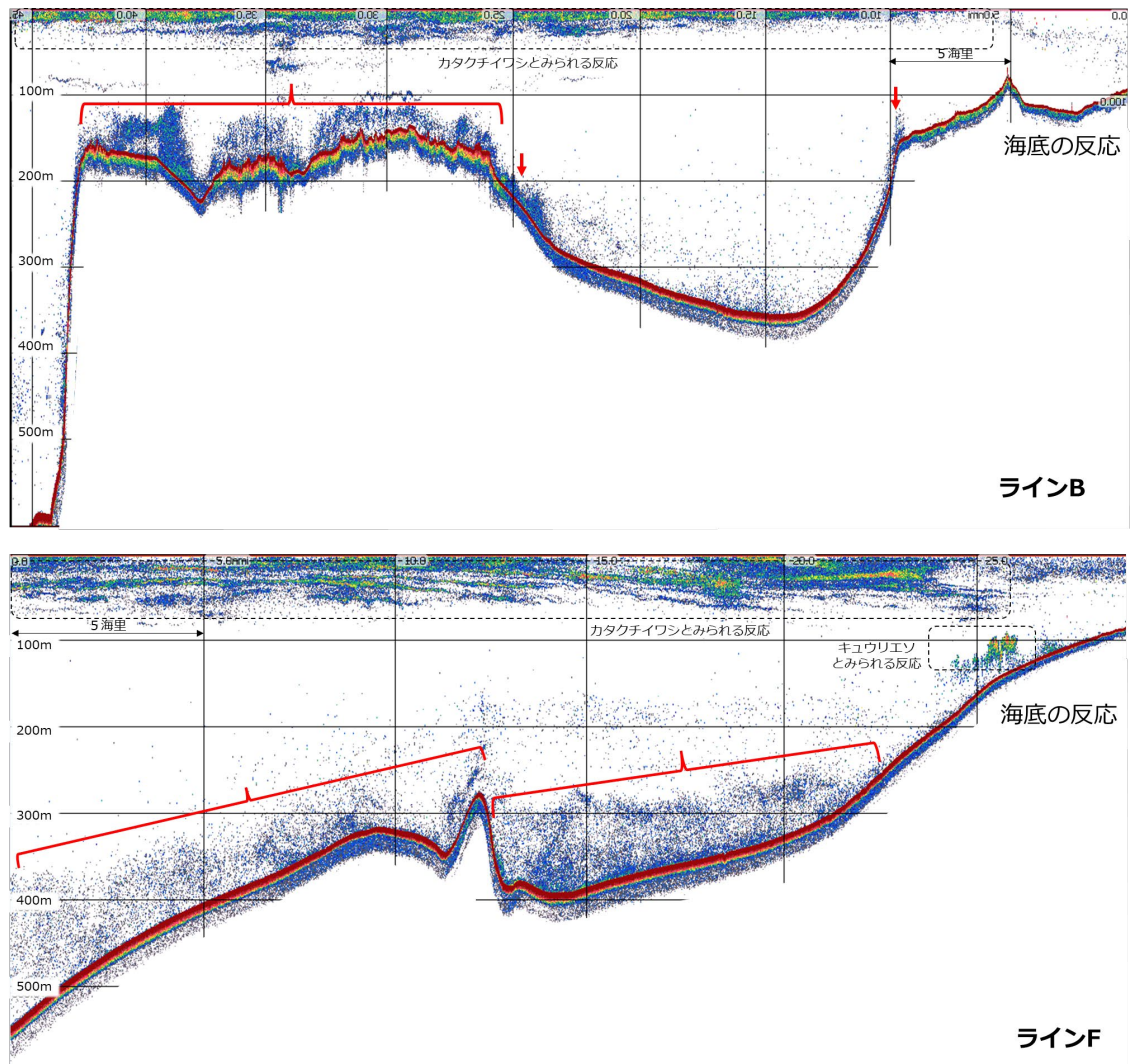


図 2. 目立った魚群反応が見られた調査ラインの魚探画像（エコーグラム）. スケトウダラとみられる反応を赤矢印と赤括弧で示しています.

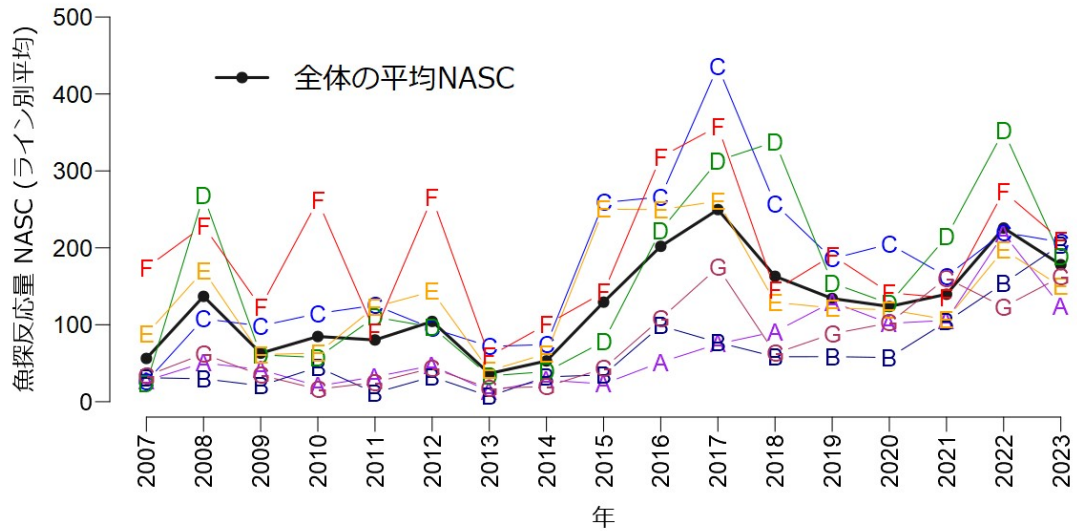


図 3. 魚探反応量 NASC の経年推移 (海底深度 150~500m の平均値).
 NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で分布量の指標になります.
 図中のアルファベットは図 1 の調査ラインと対応しています.

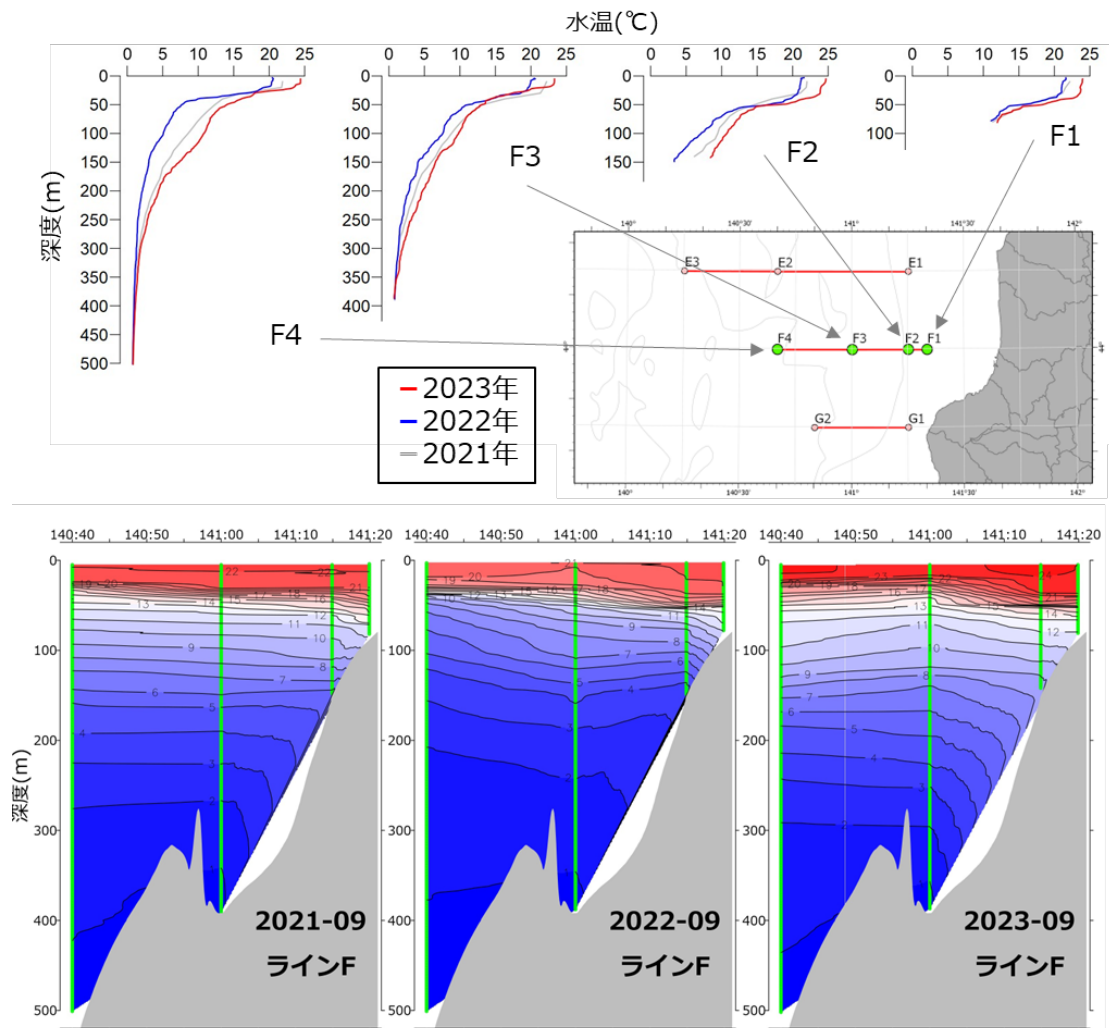


図 4. 留萌沖 (ライン F) における水温の鉛直分布図.
 下図緑色縦線は海洋観測を行った地点を表しています.

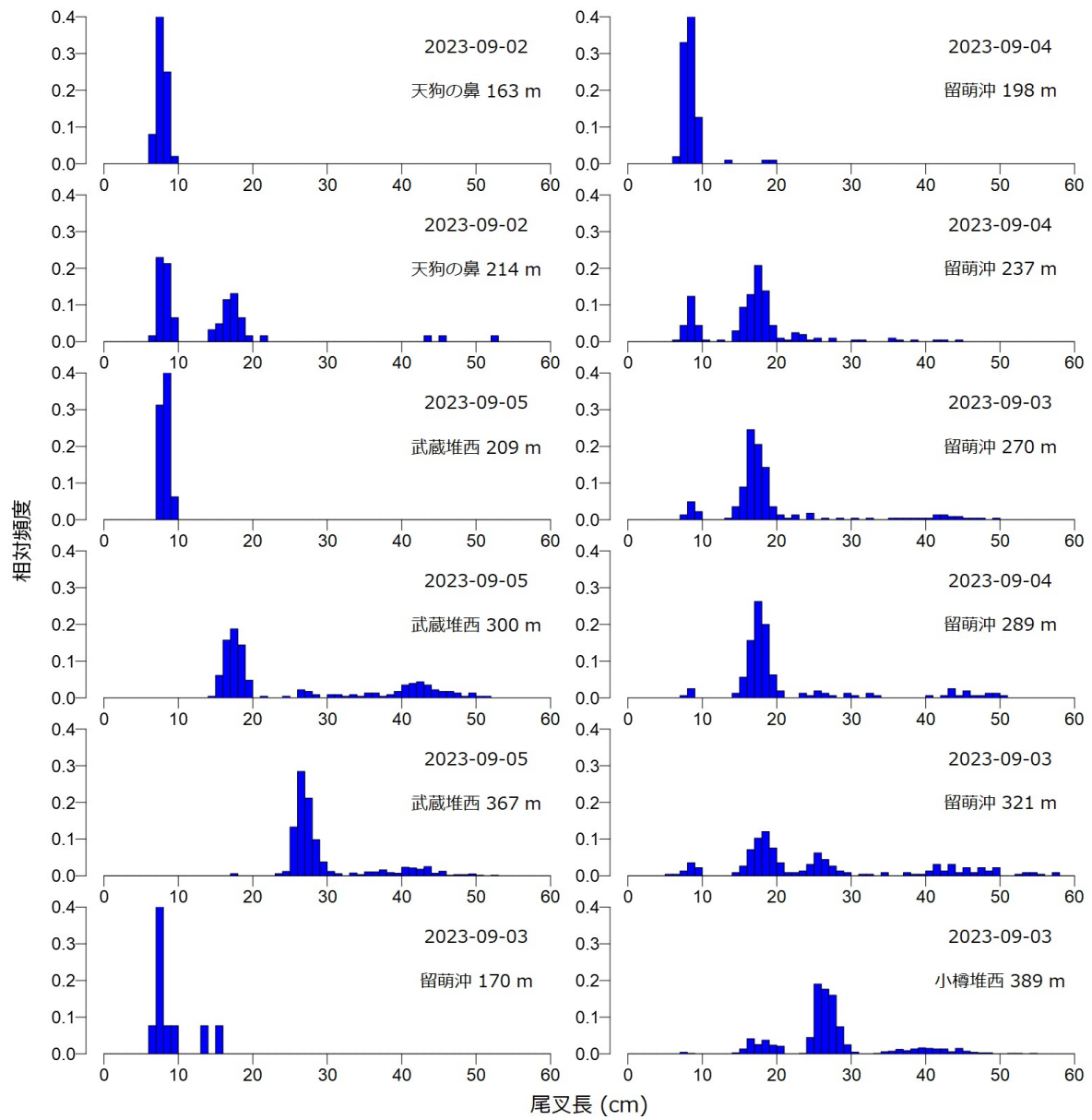


図 5. スケトウダラの尾叉長組成 (2023 年 9 月道西日本海).